

4

(43)Date of publication of application : 30.09.1997

B65D 77/04  
B65D 25/20  
B65D 33/30  
B65D 55/04  
B65D 77/20

(72)Inventor : FUJIE TAKASHI  
KISHI TAKAO

## 01/09/11 12:09

7981056  
小田嶋 社

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-255031

(43) 公開日 平成9年(1997)9月30日

(51) Int. Cl. <sup>4</sup>	識別記号	序内整理番号	FI	技術表示箇所	
B 6 5 D	77/04		B 6 5 D	77/04	B
	25/20			25/20	K
	33/30			33/30	
	55/04			55/04	
	77/20			77/20	Q
請求項 未請求 請求項の付2 FD (全4頁)					

特許請求 未請求 請求項の数 2 FD (全 4 頁)

(21) 出願番号 特開平9-93435

(22) 出願日 平成8年(1996)3月22日

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島9丁目2番6号

(72) 発明者 藤江 隆

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉

野工業所内

(72) 発明者 岸 隆生

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉

野工業所内

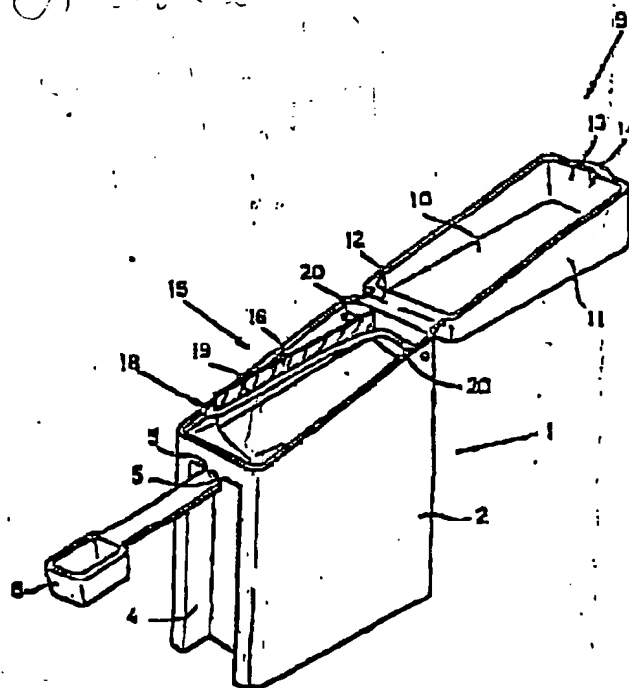
(74) 代理人 弁理士 今岡 良夫

(54) 【発明の名称】 粉体収納容器

(57) 【要約】

【課題】 交換用の収納袋を収容させた粉体収納容器において、収納袋を再閉塞できるよう形成して、収容袋内粉体が容器内へこぼれ出ることを防止できるよう設けた。

【解決手段】 容器体1と、該容器体上面を開閉する蓋体9と、容器体1内へ収納された粉体収納袋15と、挟持用ヘアピン形状に鋼線中間部を折り返して設けた相互に接する二本の鋼線部分19、19の各先端を側外方へ屈曲して軸部20、20となし、これ等軸部の先端部を容器体周壁2に穿設したピン孔内へ回動および揺動自在に嵌合させた弾性挟持部材18とからなり、鋼線部分19、19は上記中間部を中心として弾性に抗して引き離し可能となし、また、粉体収納袋15上端部を開口部16として、該開口部直ぐ下方の袋部分を両鋼線部分19、19で強制引き抜き可能に挟持させた。



BEST AVAILABLE COPY

(2)

特開平9-255031

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 底壁周縁から周壁2を起立する合成樹脂製の容器体1と、該容器体の周壁2上面を閉塞する蓋体9と、上記容器体1内へ収納された粉体収納袋15と、挟持用ヘアピン形状に鋼線中間部を折り返して設けた相互に接する二本の鋼線部分19、19の各先端を側外方へ屈曲して軸部20、20となし、これ等軸部の先端部を上記容器体周壁2の左右両側壁の後端上部に穿設したピン孔内へ動および摺動自在に嵌合させた弾性挟持部材18とからなり、上記二本の鋼線部分19、19は上記中間部を中心として弾性に抗して引き離し可能となし、また、上記粉体収納袋15上端部を開口部16として、該開口部直ぐ下方の部分を上記左右両鋼線部分19、19で強制引き抜き可能に左右から挟持させたことを特徴とする粉体収納容器。

【請求項2】 容器体周壁2の外面に下面開口の凹溝4を縦設して、該凹溝の上壁面から破断部5、5を介して蓋体9と一体成形した計量スプーン6を凹溝4内へ垂設し、かつ該凹溝左右両側の周壁外面部分にラベルないしテープ7の左右両部を剥離ないし破断可能に貼着させ

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、粉石炭等の粉体を貯蔵する粉体収納容器に係る。

【0002】

【従来の技術】

【発明が解決しようとする課題】 粉石炭を収納させた容器として、容器体の周壁後部と、該周壁上面を閉塞する蓋部をヒンジを介して結合させた箱状の容器が知られている。ところで、上記容器は使い捨てとされている。省資源の立場から好ましくなく、例えば、容器体と交換用の粉石炭収納袋を収納させて、該収納袋を交換して用いることも考えられるが、この収納袋は一旦使用すると再閉塞できないので、容器を誤って倒す、乱雑に扱うと、収納袋内の粉石炭が容器内部へこぼれ出すこととなる。

【0003】 請求項1の容器は、挟持用ヘアピン形状に鋼線中間部を折り返して設けた相互に接する二本の鋼線部分の各先端を側外方へ屈曲して軸部となし、これ等軸部の先端部を、容器体周壁の左右両側壁の後端上部へ穿設したピン孔内へ動および摺動自在に嵌合させ、かつその鋼線中間部を中心として左右両鋼線部分を弾性力によって引き離し可能に形成し、また、これ等鋼線部分の収納袋上端部を強制引き抜き可能に左右から挟持させることで、収納袋を再閉塞できるように形成して、上記課題を解決するよう設けた。

【0004】 請求項2の容器は、容器体の周壁外面に縦設した、側面および下面開口の凹溝の上壁面から破断部として計量スプーンを凹溝内へ垂設し、かつ該凹溝左右両側の周壁外面部分にラベルないしテープの左右両部

を剥離ないし破断可能に貼着させることで、計量スプーンと容器体を一体に成形してコストを削減できるように、また、計量スプーンが流通過程で紛失し或いは邪魔とならないよう設けた。

【0005】

【課題を解決するための手段】 第1の手段として、底壁周縁から周壁2を起立する合成樹脂製の容器体1と、該容器体の周壁2上面を閉塞する蓋体9と、上記容器体1内へ収納された粉体収納袋15と、挟持用ヘアピン形状に鋼線中間部を折り返して設けた相互に接する二本の鋼線部分19、19の各先端を側外方へ屈曲して軸部20、20となし、これ等軸部の先端部を上記容器体周壁2の左右両側壁の後端上部に穿設したピン孔内へ動および摺動自在に嵌合させた弾性挟持部材18とからなり、上記二本の鋼線部分19、19は上記中間部を中心として弾性に抗して引き離し可能となし、また、上記粉体収納袋15上端部を開口部16として、該開口部直ぐ下方の蓋部分を上記左右両鋼線部分19、19で強制引き抜き可能に左右から挟持させた。

【0006】 第2の手段として、上記第1の手段を具備すると共に、容器体周壁2の外面に下面開口の凹溝4を縦設して、該凹溝の上壁面から破断部5、5を介して容器体1と一体成形した計量スプーン6を凹溝4内へ垂設し、かつ該凹溝左右両側の周壁外面部分にラベルないしテープ7の左右両部を剥離ないし破断可能に貼着させた。

【0007】

【発明の実施の形態】 1は容器体であり、該容器体は、底壁周縁から、上端面を後方高の傾斜面とする周壁2を起立して、該周壁の左右両側壁の後端上部にピン孔を穿設し、また、周壁2の前壁内面上端部に図示しない係合突条を付設している。更に、上記周壁2の前壁外面には、下面開口の凹溝4を縦設し、かつ該凹溝の上壁面から破断部5、5を介して容器体1と一体成形した計量スプーン6を凹溝4内へ垂設すると共に、該凹溝左右両側の周壁2外面部分に、上下方向市を適宜としたラベルないしテープ7を剥離ないし破断可能に貼着させている。

【0008】 上記容器体1の周壁2上面は蓋体9で閉塞させてあり、該蓋体は、頂壁10周縁から、下端面を後方高の傾斜面とする短周壁11を垂設すると共に、該短周壁の後部下端を上記容器体1の周壁2後部上端へ肉薄ヒンジ12を介して結合させ、短周壁11の前壁内面下部に付設したフック13を上記容器体1の係合突条下面に係合させる。更に、短周壁11の前壁外面下端に摘み板14を付設している。

【0009】 15は粉体収納袋であって、内部に粉石炭等の粉体を収納させ、かつ上端を熱溶着等で剥離可能に接合させることで、或いは破断線を設けることで開口部16を形成している。

【0010】 18は弾性挟持部材であり、該弾性挟持部材

BEST AVAILABLE COPY

特開平9-255031

3

は、挟持爪ヘアピン形状に鋼線中間部を折り返して設けた相互に接する二本の鋼線部分19, 19の各先端を側外方へ屈曲して軸部20, 20となし、かつこれ等軸部の先端部を上記容器体1のピン孔内へ回動および摺動自在に嵌合させ、また、鋼線中間部を中心に上記鋼線部分19, 19を弾性に抗して引き離し可能となし、更に、これ等破断線部分で上記開口部16直ぐ下方の収納袋部分を強制引き抜き可能に左右から挟持させている。

【0011】本実施形態の容器では、上記ラベルなしシテーブ7を剥離ないし破断させ、次いで破断部5, 5を破断させることで、計量スプーン6を取り外す。また、図1が示す状態から図2が示すように、軸部20, 20を中心に鋼線部分19, 19を上後方へ回動させ、かつ収納袋15上端の密封部分を剥離させて収容粉石炭を使用し、使用後、両鋼線部分19, 19を弾性に抗して引き離して、これ等鋼線部分で収納袋15上端部を左右から挟持させて再開塞させる。

【0012】上記各部材は、弾性挟持部材18を除いて合成樹脂材で形成し、容器体1、計量スプーン6および蓋体9は、図1が示すように、蓋体9を開蓋し、かつ計量スプーン6を前方突出した状態で一体成形する。

【0013】

【発明の効果】本発明は上記構成とするものであり、請求項1記載の容器は、挟持爪ヘアピン形状に鋼線中間部を折り返して設けた相互に接する二本の鋼線部分19, 19の各先端を側外方へ屈曲して軸部20, 20となし、これ等軸部の先端部を容器体1のピン孔内へ回動および摺動自在に嵌合させ、かつ鋼線中間部を中心として両鋼線部分19, 19を弾性に抗して引き離し可能となし、また、粉体収納袋15上端部に形成した開口部16直ぐ下方の袋部分を、両鋼線部分19, 19で強制引き抜き可能に挟持させたから、収納袋15を開口させた後、該収納袋上端部を両鋼線部分19, 19で左右から挟持させることで、収納袋15を

再開塞させることができ、よって、乱雑に扱う等して、収納袋15内から収容粉石炭がこぼれ出すことを防止することができ、また、軸部20, 20を中心に鋼線部分19, 19を上後方へ回動させることで収納袋15を開口できると共に、両鋼線部分19, 19を弾性に抗して引き離して、これ等両鋼線部分で収納袋15上端部を挟持させることで再開塞することができ、よって、収納袋15を容易に開閉することができる。

【0014】請求項2記載の発明は、容器体1の周壁2外面に設けた下面開口の凹溝4の上壁面から破断部5, 5を介して容器体1と一体形成した計量スプーン6を凹溝4内へ嵌設したから、流通時に計量スプーン6が邪魔となることがなく、また、計量スプーン6を破断部5, 5を介して容器体1へと一体成形したから、容器体1への計量スプーン6の添付を忘れることがなく、また、流通時に計量スプーン6が粉失することがなく、更に、凹溝4左右両側の周壁外面部分にラベルなしシテーブ7の左右両部を剥離ないし破断可能に貼着させたから、凹溝4から計量スプーン6がはみ出して邪魔となり、或いは他物に接触して破断部5, 5が破断されることを防止でき、更に、計量スプーン6と容器体1を一体形成したから、コストが削減される。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明容器の一実施形態を、蓋体を開蓋した状態で示す斜視図である。

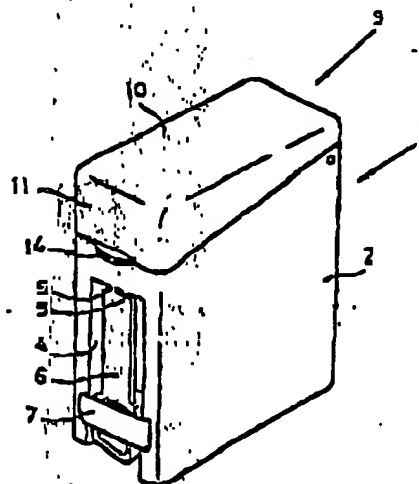
【図2】 同実施形態を、蓋体を閉蓋した状態で示す斜視図である。

【図3】 同実施形態を、蓋体を閉蓋した状態で示す斜視図である。

【符号の説明】

1…容器体 9…蓋体 15…粉体収納袋  
18…弾性挟持部材

【図3】

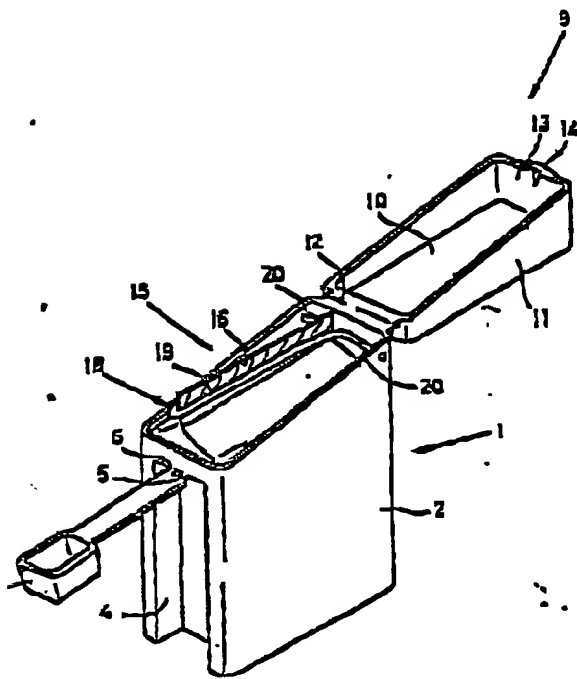


BEST AVAILABLE COPY

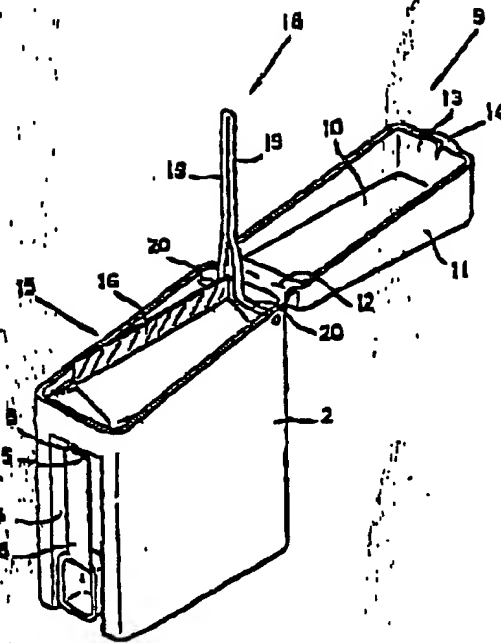
(4)

特開平9-255031

【図1】



【図2】



BEST AVAILABLE COPY